

祐善寺だより

第27号

発行日
2011年10月12日

真宗大谷派 祐善寺 住職/岡崎 賢 福井県丹生郡越前町上糸生20-2 TEL 0778-34-5170 FAX 0778-34-5170



アノネ
 じぶんのもの
 おれのものだと
 思っているけれど
 よくよく
 考えてみると
 頭の毛一本
 じぶんの
 おもうようには
 ならねんだな
 相田みつを

法句に憶う

住職 岡崎 賢

私が相田みつをさんを私淑してやまないのは、相田みつをさんが「にんげん」そのものを洞察するまなこが実に示唆に富み、人間の本质を深く捉えていることに共感しているからであります。私たち、「にんげん」は、この汚辱にまみれた娑婆の中で、悩み、苦しみながら生きています。そして、その汚辱にまみれた娑婆を形成しているのが、他ならぬ私たち、「にんげん」なのです。

親鸞聖人は、『歎異抄』の中で、「煩惱具足の凡夫、火宅無情の世界は、よろずのことさらごと たわごとまことあることなきに ただ念佛のみぞまことにて おわします」と、教えて下さっておられます。私たち

は煩惱いっぱい愚かな生活を繰り返して、仏様の前で本当に罪深い生活を繰り返していますが、そこには、何の救いもないのだ、だからこそ、私たちの救われていく道は、お念仏を申していくという営みを通していく以外にないのだ、と教えて下さっておられるのです。

相田さんが、この詩で呼びかけられておられるのは、何なのでしょううか？「頭の毛一本 じぶんの おもつようには ならねんだな」と。まさに、私たち人間の自力の限界を頭の毛に例えて説かれておられるのです。だから、親鸞聖人は「ただ念仏のみぞまことにておわします」と、教えて下さっておられるのではないのでしょうか。

祐善寺

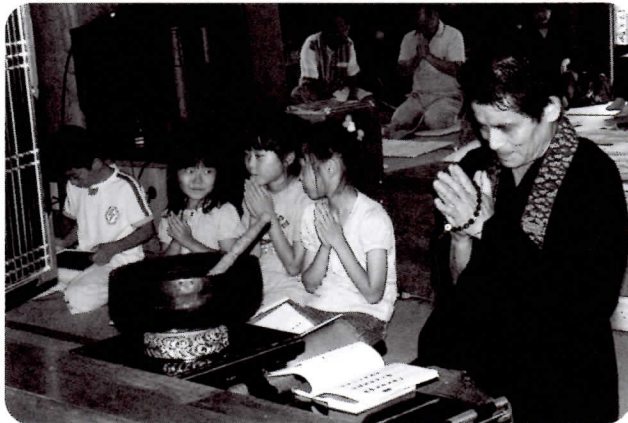
納涼祭二〇一一

盛大に開催!



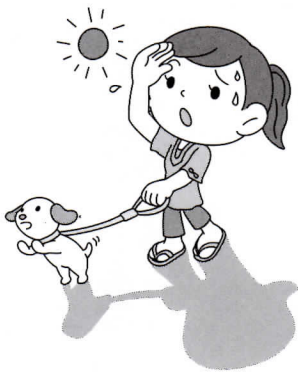
『ご先祖様の前で夏の日の楽しい思い出を残そう』を合言葉に、七月二十三日(土)午後二時から、『祐善寺納涼祭』が開催されました。これは昨年が続いて二回目で、お世話して下さるスタッフの方々も慣れた手つきで要領よく仕事を進めて下さいました。今年は三月の東日本大震災被災者を支援するためのバザーも併せて行われ、より意義深い行事になりました。

このように関係の皆さんによる前々からの周到な準備のお陰で、昨年を上回る百人以上もの参加を頂き、大いに賑わいました。祐善寺をはじめ多くのお寺で若い人の寺離れの傾向がみられる昨今ですが、今年の納涼祭には特に子供さんの参加が多かつ



住職とお勤め まあそれなりにできました。

たことは、誠に喜ばしい限りです。今後とも子供さんを含めた若い人達に、祐善寺をより身近に感じて頂けるようにする努力をそれぞれの立場で心がけたいものです。



流しそうめん うちで食べるよりもうーんとうまかったです。



お年寄りの足となって、皆さんに喜ばれました。



ビンゴゲーム さあ次は何番が出るだろう？ 7番が出るといいなあ。



バーベキュー旨かったなあ。おなが一杯になりました。

花だより



今回の花はサギソウです。写真をご覧下さい。まさに、悠然と大空を飛び回る純白の鷺の雄姿そのもので、気高い雰囲気さえ感じます。

私が最初にこの花と出逢ったのは、四十数年前のことでした。福井市内の店先に並べられていた幾種類かの



サギソウの花

鉢植えの中に、一鉢だけこのサギソウが混じっていたのです。初めて見るこの花の何とも言えない美しさに惹かれた私は、迷うことなく買い求めたのを覚えています。

越前市の安養寺町では、かつてその地に沢山あったこの花が見られなくなるのを惜しんだ地区の人達が、『さぎ草王国』という名の会をつくって、サギソウを増やす努力を重ねておられます。また、県内の高校で生物を担当していた友人は、『朝日の植物園が出来るかなり前のことだけ、あの湿地で自生のサギソウを採集したことがあるよ。』と話していました。

これらのことから考えると、残念ながら今では私達の身の回りで自生しているサギソウを見ることはできなくなっただけれど、おそらく明治の頃まではそれ程珍しい花ではなかったのだらうと思います。田の草取りで汚れた足を洗う小川のほとりで、真っ白なサギソウの花を見かけるのも珍しいことではなかったでしょう。農業機械などない頃ですから、すべての作業を自分

たちの身体を使って進めていた当時の人達は、今の私たち以上に厳しい仕事に追われる毎日であったことでしょう。でもそんな中で、野の草花に心を慰められることは少なくなかったのではなからうかと思えます。



淡い色合いの蓮の花や純白のサギソウの花々が風に揺れ、鶴や鷺などの鳥達が青く澄み切った大空をゆつたりと狐を描きながら舞っている……。阿弥陀様があられる浄土とは、そんな所ではなからうかと勝手に想像したりしていますが、来世は是非ともそんな浄土へ参らせて頂きたいものです。そしてその浄土で、これからサギソウの花達との再会を果たすことが出来たらどんなにか幸せなことでありましょう。

あっそうだ。浄土でサギソウ達との再会を果たすためには、先ずは自分が浄土へ行かなければ話になりません。そうそう、目下の私にとっての大問題は、如何にして浄土へ参るかということでした。だけど浄土へ参る方法は、心から信頼してすべてを委ねている祐善寺のご住職に教えて頂くことにして、とりあえず今日は、畑の草刈に行ってきます。(G)

大震災被災地支援

不用品バザー ご協力の 御礼と報告

去る三月十一日に東北地方を襲った東日本大震災は、幾千万人の同朋の命を奪い、甚大な被害をもたらしました。その復興・復旧に微力ながらも支援させていただくために、当寺では、七月二十三日に開催された「祐善寺納涼祭2011」で、東日本大震災被災地支援不用品バザーを行いました。

門信徒の皆様から、お家で眠っている不用品をたくさん提供していただき、「納涼祭」では、ご来場いただいた皆様から大好評を得て、またたく間に売り切れる盛況でした。売り上げ金額は、一七、三二〇円。これに、永代経会の費銭の一部を加えて、二二、三二〇円を、本山・東本願寺東日本大震災災害救援金口座へ振り込ませていただきました。ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

本堂雪囲い支柱 改良工事完成!



冬期の本堂雪囲い作業は、ご門徒さんのご協力によって行なわれてきました。雪囲いシートを固定する支柱の組み立て作業は、高所での作業や太い丸太を持ち上げる作業で、危険が伴う上に体力も要求される難作業でありました。そのような作業ゆえ、森・杖立区中心に多数のご門徒さんのご協力が必要でした。

これらの負担と危険を出来るだけ軽減するために、一月二日の門徒総会でご決議をいただき、このたび、従来の太い丸太と竹材を使っている



鉄パイプで常設された雪囲い用支柱

雪囲いシート固定用の支柱を、鉄パイプ(単管)で組み直して常設する雪囲い支柱改良工事を行いました。

この作業は、専門業者に委託せず、資材のみ寺会計で購入して、ご門徒さんの小倉区野村軍一氏が、殆ど一人で施工して下さいました。

毎年冬期の風雪から本堂を守る雪囲い作業は、困難な作業でしたが、これにより作業の能率向上と安全性が確保されることになりました。本当にありがとうございました。

草刈り作業奉仕



今年もおかげ様で祐善寺の草刈作業に参加させてもらう事ができました。体が悪かったり、地区の行事があると行けません。七月三十一日は、用事も無く元気もりもりで祐善寺へ車を走らせました。笑顔のご住職さん、奥様に頭低くお迎えいただき、またご門徒仲間の笑顔に出会う事ができ嬉しい朝のスタートでした。暑い夏でも空気が澄み、ウグイスが鳴き、蚊もいなくて祐善寺はとてもいいお寺です。草取りは嫌いでないので、私なりに頑張りました。参加



汗びっしょりでの草刈り作業に感謝!!

されている女性の方は、草取りがとても上手です。早くてきれいにされるので感心します。比べようがない程、草取りの遅い私は、だんだんと離れていきますが、マイペースでいい気持ちで仕事が出来ました。途中の休憩は、すごく嬉しい一時です。汗びっしょりの顔、顔、顔。みんないい顔です。会話も楽しくはずみです。一息いれて活動開始。

平成23年度護持費の志納よろしくお願ひします

祐善寺を永代に亙つて護持していただくために、護持費をお願いしておりますが、今年も次のおりご志納下さいますようよろしくお願ひします。

◇護持費の使途

- ・報恩講の厳修費や教化事業の実施
- ・本堂を守る火災保険や環境維持費用
- ・本山相統講、福井教区賦課金等
- ・その他

◇年額 一戸平均 一〇、〇〇〇円

◇志納方法

- ・寺へ直接志納する
- ・秋まわりや法事で住職が貴家を訪問の際に志納する
- ・地区の役員さんに志納する
- ・郵便振替口座 (〇〇七七〇―九一三〇七二二)
- ・加入者(祐善寺)へ振り込む

◇志納期限 毎年十一月末日

永代経会



桑原文子

今年の永代経会は、日曜日なので、いつもの年よりも多くの方たちが、お参りして下さるかもしれないと話合いながら御齋の準備を指揮してくださいさる方の元で、お手伝いさせてもらいました。多くの参詣者の方々があり、お互いが顔を見合わせ、出会えたことを喜び合う姿があちこちで見られました。話は弾み嬉しい花が咲いていました。御齋の場合は、賑やかで幸せの花が咲いていました。



スコップ三味線の演奏が永代経会を盛り上げた！

永代経会とは、亡き人を偲び、亡き人に願いをかけられて生かされていることに基づき、感謝申し上げる御仏事である、と教えてもらいま



今年の永代経会は活気があふれていました！！

れらのことが皆さんと一緒にできることはとてもいいことだと思います。心が安らぎます。

今年の永代経会は、新しい催しがされました。小倉福寿会の人たちのスコップ三味線の演奏や、小倉の子どもの詩吟や踊りがありました。私は初めて見させていただきましたが、心が和み楽しむことができました。参詣された方々も皆さん笑顔になりました。御本尊の前で演じてくださると、今の世を生きている人だけでなく、おじいちゃん、おばあちゃん、大切な人、友達、仲間の人たちも喜び楽しんでくださっていると思うと、なお一層楽しさが増しました。スコップ三味線の音色を奏でる手つきは、お見事でした。子どもたちの詩吟もお見事でした。踊りは、心打れました。小倉の皆さん暑い中ありがとうございました。

志賀由妃

先だつては、永代経会に参加させていただき、誠にありがとうございました。

お寺の行事に参加させていただいたのは初めてですし、お会いした方は初めての方や二回目の方ばかりで、不慣れな状態で、それでも皆さんに暖かく接していただき、とても心地の良い一日を過ごすことができました。

お手伝いを通して感じたことは、参加している方、全員が楽しんでいるなあという雰囲気だったこと、スコップ三味線など門徒さんによる出し物を企画していることなど、ただお寺の行事に留まるだけでなく、交流の場になっていることが素晴らしいなと思つたことです。みんな盛り上げていくという雰囲気があったら、これからもお寺は続いていくのかなあと思います。

また、機会がありましたら参加させていたきたいです。ありがとうございました。

岡崎優大

今年の永代経会は、有志の方々のお力添えにより皆で楽しむことのできるイベントを開催することが出来

盛り上げることが出来ても良かった、と感じています。今年、開催したスコップ三味線や踊りなどのイベントを来年以降も開催していくことが出来れば、さらに盛り上がりが出ていくと思いますし、寺がもっと地域に開かれていけるのではないだろうかと考えています。

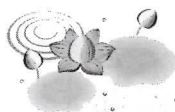
そして、今年は、学生時代からの親友も京都から駆け付けてくれ、寺に活気があふれていたと感じました。このように、お寺が活気に満ちあふれ、活性化していけるようになったら良いなあ、と願っています。

おくやみ



桑原芳子様(大野市)には、平成二十三年七月二十二日、行年九十歳にて往生の素懐を遂げられました。

ご生前中のご功勞に、心より深謝申し上げます。



親鸞聖人七百五十回
御遠忌讃仰のつどい
——「福井教区の日」団体参詣——

上野 保雄

宗祖親鸞聖人の「七百五十回御遠忌讃仰のつどい」に祐善寺の門徒会の一員として去る五月十七日京都本願寺に参詣させて頂きました。県下全員五台のバスに分乗しトラブルもなく予定十一時前本山に到着、この日は「福井教区の日」と予めきめて

あつたので混雑もなく、予定通り進行され昼食後、東日本大震災の物故者追弔法要が厳かに行われ二万数千人にも及ぶ犠牲者の方々のご冥福を衷心よりお祈り致しました。

私が勝手に思い込んでいたのです



御遠忌讃仰「福井教区の日」シンポジウム

が、御影堂阿弥陀両堂共に修復されたの大法要とばかり思っておりまして、阿弥陀堂の

改修工事はこれからで後五年、平成二十八年の春頃完成の予定だそう、期待はずれで大誤算で残念でした。御影堂は見違える程立派に改修され、ひとり頭の下がる思いで参らせて頂き、多くの門徒の力の結集とします。この法要にまいらせて戴ける果報を心よりよろこんであります。又一日でも早く阿弥陀堂の改修も出来ませう様お祈り致します。

阿弥陀堂の展示場に一番目については
人生に絶望なし 如何なる人も
決して絶望ない
中村 久子 書

口に筆をくわえ書かれた墨痕鮮やかな中村さんの書です。座右の銘と思われます。

ご承知の通り久子さんは三才に不治の病により手足を切断されダルマさんとなり、縁日の見世物小屋の看板娘として生活され残った手足を使って書もかき、縫物もし、詩も書き、いろんな事に挑戦、器用に体と手足を使い不自由な体でありながら普通の方の様に生活された方で、多くの

写真を見せて戴き今更ながら彼女の人の立派さに驚嘆感激でした。世界のヘレン・ケラーさんとは三回会えられ、日本のヘレンと這言われ、昭和天皇皇后様に宮中にて励ましの言葉を戴きました。

二時より「越前と真宗」と題してシンポジウム、五時より蓮如上人御影が吉崎より帰られ、帰山式が古式ゆたかに執り行われ参列させて頂きました。三三八回目の帰山式とのことです。有難い一日でした。

島 助右工門

今年宗祖親鸞聖人の七百五十回忌の年です。本山では三月、四月、五月の三回、夫々十九日から十日間の法要がありました。

自分は五十年に一度の御遠忌だからお参りしてきたいと思いい、三月二十八日に一人で参ってきたのと、五月十七日に福井教務所が本山で「福井教区の日、宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌の集い」を開催したので参加しました。

三月二十八日に参ったのは、五月十七日に回参で参っても、京都市の美術館で開催されている親鸞展を見て来ることは出来ないだろうと思いい、半分は親鸞展を見る目的で参りました。

三月二十八日の本山の参拝者は、阿弥陀堂と阿弥陀堂の階段の左右に御遠忌の為に作られた棧敷席も一杯でした。そして其の時の勤行は、宗務総長の計らいで、御遠忌の勤行ではなくて、東日本の大震災で亡くなられた方々の法要の勤行でした。

五月十七日は法要期間でなかったため、団体の参拝者は我々福井教区からの二三人だけでした。この日は福井教区が①七百五十回忌で本山へ参って一同で勤行し、②本山で「越前と真宗」をテーマとしたシンポジウムを聞き、③蓮如上人御影の帰山式に会うのを三本柱として計画されたものです。

シンポジウムでは、福井県の嶺北に真宗が広まって来たのは、旧穴馬村からだったという史実を聞かせて頂きました。

蓮如上人御影の帰山式には、出迎えたのは我々以外では、たまたま本山へ参って来られた方が二十人程居られただけで、過去三三七回の帰山式が思いやられ、一抹の淋しさを感じました。

参加者全員に二千五百円もする『越前真宗誌』という本を頂けたのは、これからゆっくり読ませて頂けるので、有難いことでした。

第2回 御伝鈔講座

しかあれば朝廷に仕えて霜雪をも戴き、射山に翹つて、

したがって、冠を戴く髪が霜や雪のようになるまで朝廷に仕えるか、或いは、院の御所へと昇進し

栄花をも発くべかりし人なれども、興法の因うちに萌し、利生の縁ほかに催いしによりて、

栄華を開くはずのお方であつたが、仏法を興さんとする志が萌え上がり、衆生を救済せんとする仏縁にかきたてられて

**九歳の春の比、阿伯従三位範綱卿
干時、従四位上前若狭守、後白河上
皇近臣、聖人養父**

九歳の春の頃、叔父の従三位範綱卿、その時、従四位上前若狭守で後白河上皇の近臣で聖人の養父

**前大僧正慈円、慈鎮和尚是也、法性
寺殿御息、月輪殿長兄の貴房へ相具
したてまつりて、鬢髪を剃除したま
いき。**

さきの大僧正慈円、慈鎮和尚というのがこの人であり法性寺殿の御子息、月輪殿兼実公の長兄の御房へお連れ申し上げられて、鬢髪を剃られた。

其の23

仏事 一口メモ

通夜について

いよいよ通夜勤行(つうやきんぎょう)(通夜のお勤め)の時間が迫ってきました。今回は、通夜についてお話しします。

通夜とは、遺族をはじめ縁のある者が夜を通して、葬儀までの間、亡き人を偲び、静かに遺体を見守るといのが本旨です。ですから、お勤めの間だけを通夜というわけではありません。身近な人の死という現実を謙虚に受け止め、日ごろ忘れがちな「生死(しじ)」の問題について、深く考える一夜にしたいだきたいと思えます。

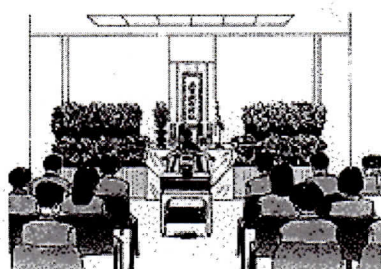
故人は人生の最後に、身をもって教えてくださっています。それは、「人はみな死ぬ」という事実です。つまり、この私も、必ず死を迎えなければならぬ生を送っているということです。そしてそれは、「死と隣り合わせで生きているあなたは、これからどのよう生きるのですか」という、亡き人からの問いかけでもあります。故人とは生前中、ケンカもし共に笑いもし、いろいろなお話があったこと

と思います。さまざまな思い出がよみがえってくることでしょう。しかし、それらすべてが、何かを教えていることではなかつたでしょうか。夜を通して、お互いに話し合えれば、通夜の本旨にあはれ適うことではありません。

さて、お勤めの時間が近づきました。お勤めは、仏さまの教えに出あう大切な縁になるものです。お勤めや住職のお話(法話)をお聴きして、生きていることの尊さを仏さまの教えにたずねていただきたいと思います。

それでは、喪主、近親者、遠縁の順に席につきましょう。弔問者の座る順番は、事情のある場合を除いて、前から順次座っていただくこととさせていただきます。お勤めは、住職と共に『正信偈』を一緒に唱和します。合掌は、住職に合わせて行ってください。このとき、数珠を忘れないようにします。

最後に通夜の服装についてですが、最近では礼服で弔問に来られる方が多くなりまして、遺族の方も礼服(喪服)を着用されています。たぼうが失礼にならないと思います。『サンガ』より



お知らせ



報恩講御案内

十一月二日(水)

日中 午前十時

御齋 午前十一時半

逮夜 午後一時半

満座 午後六時半

布教 出雲路善公師

つきましては、親鸞聖人の御遺徳を偲び、右の通り報恩講を厳修いたしますので、万障お繰り合わせの上、御家族、御近所、御法友お誘い合わせの上、何卒御参詣下さいますよう、御案内申し上げます。

ボランティア募集!!

仏具磨き作業奉仕

とき 十月十五日(土)

八時〜

持物 軍手・木綿布

報恩講を前に、一年間、埃等汚れた本堂内の仏具一式のお磨き作業を行います。

この仏具磨き作業に、皆様のご協力をお願いいたします。ご協力をいただける方は、前日までに寺へご連絡をお願いいたします。



ボランティア募集!!

雪囲い作業奉仕

とき 十一月十三日(日)

八時集合

持物 鎌(カッター)、軍手、合羽(悪天時) 等

昼食 用意します。

傷害保険 加入します。

作業内容

雪囲い作業は、高所での作業ばかりでなく、高所が苦手な方は、下で雪囲いシートのヒモ結びや資材運び等の作業もありますので、ご都合のつく方は、ご協力をお願いします。

お申し込み

お手数ながら、前日までに寺までご連絡下さい。

皆様、どうかよろしくお願ひします。



編集後記

★私の関係ある小冊子の年頭所感に、今年可愛い目をした兎年。飛んだり、はねたり良い年になる様にと願って寄稿したのですが、三月十一日に千年に一度あるかないかの東日本の大震災。おまけに原電の得体の知れない放射能禍、又、台風十二号十五号の山津波水害。すべて想定外記録破りの惨事ばかり。被災者の方々に心よりお見舞い申し上げます。一日も早く復興されますことをお祈りいたします。

★新年の期待と裏腹に大惨事ばかり。今年の言葉は想定外と記録的にきまりでしょう。

★郷土福井もいつ何時何が起こるやも判りません。心の準備、対策はしておきましょう。

★庭に出て見ると、雨風の中に彼岸花が今年も目を違わず咲いてくれました。記録破りの猛暑、風雨にも、彼等は彼岸を忘れずに咲いてくれました。私達に何かを教えてくれています。不思議な事ですね。有難いことです。

★人生八十年の長寿社会に入りました。昨今七十七才以上の方の敬老会があり、朝日地区で男三九五名、女七四八名、合計一四三三名、全国で六十五才以上は二九八〇万人、五人に一人は老人と言う社会も間近と思えます。(U)